

## 会 議 録

会議名 (付属機関等名)		川西市公共施設等あり方検討委員会(第6回)	
事務局(担当課)		公共施設マネジメント室	
開催日時		平成28年1月26日(火) 午後5時00分から6時15分	
開催場所		川西市役所4階 庁議室	
出席者	委員	小西委員(委員長)、森委員(副委員長)、後藤委員、水野委員、安枝委員、米田委員	
	その他		
	事務局	米田理事(公共施設マネジメント室所掌事務の総合調整)、井上公共施設マネジメント室長、阪上公共施設マネジメント室主幹、原公共施設マネジメント室主査、宮下公共施設マネジメント室主任	
傍聴の可否		可	傍聴者数 6人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第		(別添会議次第のとおり)	
会議結果		(別添審議経過のとおり)	

# 川西市公共施設等あり方検討委員会委員名簿

平成 28 年 1 月 26 日現在

(敬称略、50 音順)

	委員氏名	役職等	選出基準	備考
1	後藤 正順	川西市コミュニティ協議会連合会理事 緑台・陽明コミュニティ協議会長	市民	
2	小西 砂千夫	関西学院大学人間福祉学部教授	学識経験者	委員長
3	水野 優子	武庫川女子大学生生活環境学部講師	学識経験者	
4	森 裕之	立命館大学政策科学部教授	学識経験者	副委員長
5	安枝 英俊	兵庫県立大学環境人間学部准教授	学識経験者	
6	米田 大造	株式会社池田泉州銀行リレーション推進部 地域創生室主任調査役	事業者	

## 川西市公共施設等あり方検討委員会（第6回）会議次第

日時：平成28年1月26日（火）

午後5時00分～

場所：川西市役所4階 庁議室

### 1 開会

### 2 議事

(1) 前回からの主な修正点について・・・・・・・・・・【資料1】【資料2】【資料3】

(2) 川西市における今後の公共施設等のあり方について（答申）

(3) その他

### 3 閉会

（配布資料）

【資料1】「第5回委員会意見」と「追加意見」に対する対応表

【資料2】課題・基本方針・計画推進に向けた考え方等（第5回委員会意見反映分）

【資料3】川西市における今後の公共施設等のあり方に関する検討報告書（案）

【その他】会議次第 / 委員名簿

# 審 議 経 過

委員長	<p><b>1 開会</b></p> <p>本日は委員 6 名全員が出席しているため、会議開催要件である過半数の出席を満たしており、本日の委員会は成立していることを報告する。</p> <p>まず資料 1 として、前回の委員会での意見に対する事務局の対応案がまとめられている。今日が最終回ではあるが、議論を尽くすということが大事なので、修正はやぶさかではない。細かいところまで注意して最後まで丁寧にお願いしたいので、遠慮なく意見を言ってほしい。では、事務局に修正点の説明をお願いする。</p>
事務局	<p>(事務局より配付資料の説明)</p>
委員長	<p><b>2 議事</b></p> <p><b>(1) 前回からの主な修正点について</b></p> <p>資料 1 の 10 頁から 12 頁を中心に、追加意見に対する対応の説明があった。発言者としてその修正でいいか、何か補足があったり、これでは困るといことがあれば発言をお願いしたい。</p> <p>私からの追加意見は 4 と 5 である。4 は小学校と中学校を区別するというのがこの委員会での一つの特徴だったので、分けて記述したらどうかと思った。5 は今まで全く議論していない内容であり、第三者的にこういう記述があった方がいいのではないかと事務局から相談を受けたものである。公共施設の総合管理という視点では跡地売却は非常に重要で、記述としてあった方がいいと思う。ここは特に議論をしていない箇所なので、皆さんで修正してもらえればと思う。</p> <p>他のところでも同じように補足説明をいただくとか、今思いついたことも含めて発言をお願いしたい。まず、5 について伺いたいかどうか。</p>
A 委員	<p>資料 3 では何頁に該当するのか。</p>
事務局	<p>24 頁(1)の が該当部分である。</p>
委員長	<p>(1)に として割り込んで、元々あった が にスライドしている。土地利用というのは結構放ったらかしになる場合があるので、そうはしないということ。</p>
B 委員	<p>「原則貸付」となれば、「地域住民の意向を聞く」といったように、これまで色々な議論をしてきたが、市主体での運用や貸付にならないか少し表現が気になる。</p>
委員長	<p>「地域住民の意見を尊重しつつ ・」のような文言を入れるか。</p>
B 委員	<p>そういう文言が入ればいいと思う。</p>
委員長	<p>確かにこの部分だけを取り出すと、結局売って借金を減らすことが目的なのかと</p>

	<p>思われかねない。何か意見はないか。</p>
A 委員	<p>この「方向性3」に至るまでには「方向性1・2」があって、施設の利活用は地域で考えてもらい、その結果、施設の廃止が決まった建物をどうするのかという展開になっていると思う。</p>
事務局	<p>23頁に記載しているように、小学校の利活用については地域と一緒に考えていきたいと思っている。今発言いただいたとおり、答申には最初から続く流れがあるので、24頁(1)の だけ抜き出して捉えるのではなく、少なくとも(1)の があつた上での になっている。実際に統合や廃止の話を進めていく段階でも参画について謳っているし、跡地利用についてもその中での話になってくるかと思う。今後の公共施設の方針を考えていく上で重要な点になるので入れておきたい。</p>
B 委員	<p>今までの委員会での議論の流れは分かっているが、ここだけを読むとそう感じてしまう。</p>
A 委員	<p>「貸付」と言うと、例えば地域住民へ貸し付けて、色々な利活用を考えて下さいという意味も含まれていると思う。ただ、読み手からすると、どこかの企業に貸し付けるのではないかと受け取れるのも分かる。</p>
B 委員	<p>そういう方法もありだと思う。例えば、1つの小学校の校舎が空いてしまう。そこに学校法人の事業者を呼んできて、一括で貸し付ける方法もあると思う。</p> <p>「貸付・売却」の文言の前か後ろに何か言葉を入れることができないか。</p>
A 委員	<p>「貸付・売却」の表現はいいと思う。通常は、売却を原則として謳うことが多い。貸付が前にきているのは積極的に答申の流れを受けた書き方になっていると思う。この順番は堅持してほしい。</p>
委員長	<p>「統合・廃止により生じる跡地について ・」を「23 頁や 24 頁(1) をやった上で結果として生じる跡地利用について・・・」のような表現にするとか、どんな跡地なのかということを書けばいいような気がする。</p>
B 委員	<p>に続いて なので、学校が統廃合した時にそこを貸し付けたり売ったりするのではないかと読めてしまう。</p>
委員長	<p>学校が統廃合した時は、基本的には利活用していく方向なので空き地にはならない。その意味ではこの記述は ではなく のほうがいいかもしれない。入れ替えてにして、「上記 から の方針に従って、施設総量の適正化を進めた結果生じた跡地については・ 」でどうか。</p>
B 委員	<p>そういう前文が入れば理解できる。</p>

A 委員	<p>今の付け加えだが、余った土地をどういうところに貸付・売却するのかという視点も大事。実際に京都でも起こった事例だが、廃止になった公立学校の跡地に私立の学校が来て、今までだったら運動場は地域に開放されていたが、私立が来てからは駄目だと。私立学校側からすると、市から頼まれて跡地を引き継いだのに、なぜ批判されないといけないのかと揉めることもある。そういうことを言葉として織り込むなら、「適切な貸付・売却を行い」はどうか。</p>
委員長	<p>例えば、跡地が風営法上の施設になると住民感情を著しく刺激する。それは、駄目という意味だと思う。土地利用としては有り得ないと思うが、それぐらいのことは考えておかないといけない。</p> <p>「跡地利用のあり方について十分配慮した上で」とか。しかし、「跡地利用について十分配慮」ではあるが、どういったことに配慮するかが問題。例えば「跡地利用について住民の理解が得られるように配慮した上で」とか、何と書けばいいか。公益的な配慮か。</p>
A 委員	<p>公益性だと自治体から見て公益かどうかなので、独占的なニュアンスに感じてしまう。「地域住民の理解に」とかだと思う。</p>
B 委員	<p>「地域住民の理解を得て」でいいかもしれない。</p>
委員長	<p>都市計画の政策上、小学校の跡地がパチンコ店になるのは普通有り得ないので、そこまで心配しなくてもいいが。ただ、言葉が独り歩きされるのは怖い。「結局、売ることが目的なのか」となった時に、委員会として6回議論してきたのに、取りこぼした印象を受けてしまう。</p>
事務局	<p>22 頁の「方向性 1 参画と協働を踏まえた取組の推進」には地域住民の理解を得た上でという要素が十分含まれている。ただ、独り歩きしてはいけないというのも分かる。</p>
委員長	<p>「跡地利用について地域住民の理解を得た上で」という文言を追加するのは少しくどいが、それぐらいしか文言が思い浮かばない。</p>
B 委員	<p>「丁寧な住民との対話」が答申の全体的な流れの一つとなっている。今の だけを見れば危惧する点がある。</p>
委員長	<p>と をひっくり返した上で、一度 を事務局に読んでほしい。</p>
事務局	<p>「上記 から の方針に従って、施設総量の適正化を進めた結果生じた跡地については、その利活用に当たって地域住民の理解を得た上で、原則貸付・売却を行い、施設整備や改修等に要する財源確保に努める」</p>

委員長	この点について補足がなければ、他の点はどうか。
B委員	資料3の1頁「報告に当たって」は今回初めて示された文章である。少し気になったのが、15行目「地域住民は、自分の住んでいる地域・役割が何なのかということを理解する」までは、確かに地域住民は理解できる。しかし、その後の「広く市全体の課題を解決するために公共施設が果たす役割についても認識し、」という表現に無理があると思うがどうか。
A委員	要するに、市が上からマネジメントを考えるだけでは住民の声が反映されない。下からのボトムアップの考えをきちんと参画と協働で取り入れないといけない。この文章は、「市の上からのマネジメント計画についても理解してほしい」というような意味合いで書かれていると思う。
B委員	そういう市の考え方は、月1回の広報誌に丁寧に書いているから理解できる。ここでこの文章が必要かどうか。
A委員	これを読むと全体のことでも理解してほしいと上からも読める。しかし、市が求めるのもよく分かる。
B委員	それは分かるが、地域住民が全市的なことまで理解して、地域のことを話し合っていけるかという点で、少し表現を変えた方がいい。
事務局	今回の委員会の中で、情報公開の関連で、市として施設のデータベースを公開すべきなどの話があった。それを分析するのは市民の方々ではなかなか難しいので、説明会や出前講座を実施して、地域のことを全市的な視点で考えていかないといけない。公共施設は市全体に及ぶ話なので理解してほしい部分もある。 付け加えると、小学校は地域課題に資する利活用を、中学校は全市的課題に対応した利活用を行っていくという流れの中で、中学校の利活用方策のように、人口流入とか新たな市の魅力創造の発信の話になってくると、地域から一つ大きく飛び出していきたいという思いもある。
A委員	「広く市全体の・認識し」までが文章として具体過ぎるので「・理解するとともに市の抱える状況にも考慮しつつ、市と地域それぞれがまちの将来像を融合させていく必要がある」ぐらいの感じでどうか。
委員長	「地域住民は、・公共施設が果たす役割が何なのかということを理解する必要があります」で一旦切る。接続詞なしで「広く」を取って、「市全体の課題を解決するためには、公共施設が果たす役割についても」の「も」が要らない。「認識を深め、市と地域それぞれが描くまちの将来像を融合させていかなければなりません」にして、「繰り返していくこと」は要らない。 「そのことを通じて、」の箇所は何と何の間に信頼関係が生まれるか、そこで悩んでいる。「ひいては、地域に埋もれている人材や力を引き出すきっかけになりま

	<p>す」でいいと思う。要は、そういうことを通じて信頼関係を生み出して人材を創りだしていきましょうということ。そこまでやれと言われても無理だが、本来はそれをやらないと駄目という意味。あとは、何と何の間の信頼関係か。「地域住民と市」は使いたくないが、やはり地域住民と市との信頼関係か。信頼関係じゃなくて、「ひいては」を取って「地域に埋もれている人材や力を引き出すきっかけになります」でどうか。一度確認のため、事務局に読んでほしい。</p>
事務局	<p>「地域住民は、自分の住んでいる地域の中にはどのような課題があり、課題解決に向けて公共施設が果たす役割が何なのかということを理解する必要があります。市全体の課題を解決するためには、公共施設が果たす役割について認識を深め、市と地域それぞれが描くまちの将来像を融合させていかなければなりません。そのことを通じて地域住民の市全体の課題に対する理解が深まり、地域に埋もれている人材や力を引き出すきっかけになります」</p>
委員長	<p>「きっかけになります」はおかしいので、「地域に埋もれている人材や力を引き出すきっかけが生まれます」でどうかと思う。綺麗な文章ではないが上から目線ではなくなったと思う。住民力に期待しますという意味も込めて、いかがか。</p> <p>(異論なし)</p>
委員長	<p>議論が尽きたと思う。この後、修正版を印刷していただき、内容を確認した上で答申に移りたいと思う。</p> <p>(休憩)</p>
委員長	<p>これまで6回にわり議論を重ねてきたが、市長に答申したいと思うので、よろしくお願いしたい。</p> <p><b>(2) 川西市における今後の公共施設等のあり方について(答申)</b> (委員長から市長へ答申書を交付)</p>
大塩市長	<p>改めまして、市長の大塩でございます。ただいま、小西委員長より答申をいただきました。昨年の7月28日に第1回の委員会で諮問をさせていただいて以来、本日に至るまで6回の開催ですが、その間、小西委員長はじめ委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご議論をいただき、改めてお礼を申し上げたいと思います。</p> <p>さて、私自身も市政を預かりまして早いもので3期目。特に今年は10年目という大きな節目で、市にとりまして「地方創生」ということで、更にしっかりと取り組んで参りたいと思っております。ただ、その中でも全国的に少子高齢化を避けて通れない大きな問題になってきているところで、本市も大きな全国の流れからすると現実として受け入れ、しっかりと対処していきたいと思っております。</p> <p>生産年齢人口も減る中で、色々施策がある訳でございますが、私どものまちは以前から非常に地域コミュニティが盛んで、それを更に発展させていくことができ</p>

	<p>ばとの思いで、平成26年度に「地域分権制度」を創設させていただきました。新年度からは14地域全てにおいて取り組んでいただけることになっております。まだまだ課題はありますが、将来に向けた地域のつながり、そして、地域の特徴を出していくには非常に貢献していく制度だと思っております。</p> <p>また、そのように地域の方に活動していただくためにも、インフラを含めた公共施設のあり方が非常に大事だと思っております。私どものまちの特性として、建物が老朽化していることも事実です。また、人口減少をどのように捉え、今ある施設をどう活用していくか、あるいは統合していくということも大きな課題だと考えております。それらを議論するには、なぜこれらの施設が統廃合しないといけないのか、この施設は残してほしい、もっと使い道がないのかなど、これから地域でも様々な意見が出てこようかと思っております。そこは先を見据えて、地域住民の暮らしの視点から色々難しいこともあるかと思っておりますが、しっかり議論していく必要があると思っております。</p> <p>そのような中で、今回頂戴しました答申の中にもありますように、市民の声、地域住民の声はしっかり取り入れていく必要があると思っております。今後につきましては、答申の趣旨を十分に尊重しまして、まずは公共施設等総合管理計画を策定し、その上で私以下職員が一丸となって施設の再編問題にしっかり取り組んでまいりたいと思っております。公共施設の再編は、これからのまちや人口を見た時にコンパクトシティとか色々なことが言われております。市内全域のコンパクト化も各地域のコンパクト化も必要であり、組み合わせが重要だと思っております。</p> <p>結びになりますが、今後とも本市の市政運営にご協力を賜りますようお願いいたしますとともに、皆様方の今後一層のご活躍を祈念いたしまして、答申にあたり、お礼のご挨拶とさせていただきます。この半年間お世話になり、本当にありがとうございました。</p>
委員長	<p>皆様の協力をもって答申ができた。まず、議事進行に協力いただいたことにお礼を申しあげたい。また、事務局や傍聴者にも支えていただいた。私自身、公共施設等総合管理計画の総論はともかく、各論として一通り付き合わせていただいたことで大変勉強になったし、このことに感謝したい。</p> <p>最後なので、順番に一言ずつ頂戴したいと思う。</p>
A 委員	<p>委員長が言われた思いと同じで、私も大変勉強になった。公共施設に関する委員会は初めてで、国の答申とかは読むが、実際に自分が現場に入った時の緊張感は随分違うと感じた。特に市民から選出された委員がいることで、地元の声を生で聞く機会になった。これからの自分の研究にも大いに役立っていくと確信しているし、何よりとてもいい答申ができたと思う。こういった答申は見たことがない。だから、川西市がこの答申を基にどのような公共施設の再編問題に取り組んで行かれるか、関心を持って見ていきたい。</p>
C 委員	<p>建築分野の立場で参加させていただいた。大学では建物をもっとこう使っていこうとか夢のある話を議論することが多いが、今回は財政や地域のことを考えながら答申を作っていくということで、私にとって貴重な経験となった。今後はこの答申</p>

	<p>に基づいて個別施設の方向性を検討していくという点で、特に行政の方は大変苦勞をされると思う。地域の中に入った時にどんな意見が出るのか、果たして提案が通るのかなど心配することが多いと思うが、大学や専門家などと協力しながら地域に入っていくという手続きがどのまちでも起こっている。従来の合意形成のやり方だけではなく、専門家や大学・地域の方々の中でも実動できる人の意見を上手く取り入れながら、難しい問題を乗り越えることができると期待している。</p>
D 委員	<p>委員長はじめ、皆様には勉強させていただいた。市長の言葉にもあったが、「地方創生」については、私も一民間事業者の立場として取り組んでいる。</p> <p>この答申が羅針盤となって今後どういう目的地に着地するかを非常に試されていると思う。私も一民間プレイヤーとして、少しでも地域の発展に貢献できればと思っている。最終的には川西市の示す答申が全国的に模範になるような、それぐらいのものとして取り上げられてほしい。私もことある事に会合に呼ばれているので、東京でもどんどん発信してまちづくりに少しでも役に立てればと思う。</p>
B 委員	<p>6回参加させていただいたが、かなり背伸びをしないといけない委員会だったと思う。大塩市長が10年目と言われた。私も地域のお世話や自治会の仕事をして10年になる。地域の皆様から色々と学ばせていただいたことが少しは役に立ったと思っている。本当にいい勉強をさせていただいた。</p>
E 委員	<p>私自身、公共施設の委員会は初めてで、毎回勉強させていただきながらの参加となった。公共施設等の話は、非常に重要で難しい問題である。第1回委員会で発言したが、市の情報開示においてキメ細やかな情報を発信していくことや、地域住民の意見を伺って丁寧なプロセスを経ていくこと、そのあたりが非常に重要になっていくと思う。これからこの答申をベースに具体的な計画を策定していかれると思うが、是非この答申の趣旨が受け継がれ、実際のまちづくりに繋がってほしいと感じている。</p>
委員長	<p>その計画が計画だけで終わってはいけない。答申を受けて計画を策定していくことと併せて、公共施設等の適正な管理に努めてほしいと私のほうから念を押して最後としたい。</p>
事務局	<p><b>(3) その他 事務連絡</b></p> <p><b>&lt;今後の計画策定スケジュールについて&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後、公共施設等総合管理計画の素案を作成</li> <li>・ 4月からコミュニティ単位で地域別説明会を開催</li> <li>・ 以降、議員協議会の開催とパブリックコメントの実施</li> <li>・ 9月中を目途に総合管理計画を策定</li> </ul> <p><b>3 閉会</b></p>